市・史跡

高円堂用水

魚津市天神野新（魚津市）

水のない天神野台地を開墾しようとして加賀藩が直接工事に携わったもので、慶安２（1649）年に着工し、２年後に一応の完成をみた。片貝川右岸の東山から山腹ぞいに水を引いたもので、途中の東山と天神山の間にあった高円堂谷を埋め、その上に幅３ｍ、深さ１ｍ、長さ220ｍに及ぶ木製の樋をかけた。この埋め立ては困難を極め、高さ20ｍあまり、長さ200ｍあまりの長大な堤を、鍬とモッコを使い人力だけで築き上げるという想像を絶するものであった。伝承では人柱を捧げて工事の進捗を祈願したという話もあり、はかどらない工事を「高円堂普請」ともいう。

布施谷節の中に「まだも果てぬか高円堂普請おらも25の殿もった」と歌われているように、完成後もたびたび欠壊を繰り返し、際限のない普請が続いたものと思われる。

工事を計画した郡奉行山本清三郎が完成を記念して10本の松を植えたと伝えられている。